

事業名：千葉県通学路推進事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：山武市山武中学校地区

拠点校：山武市立日向小学校

所轄教育委員会：山武市教育委員会

1 モデル地域の現状

○モデル地域名：山武市立山武中学校地区

○学校数：小学校 3 校
中学校 1 校

○モデル地域の安全上の課題

モデル地域の日向小学校区は、令和 2 年度末に閉校した日向小学校と山武西小学校が統合し、新しい「山武市立日向小学校」は令和 3 年 4 月に開校したばかりである。統合により、児童の 85% が 4 方面に展開している通学バスを利用している。4 方面に展開するバスに乗車する児童数が多いため、乗降場所のバス停までの通学路の安全や乗車中のバス内での安全対策について、今まで以上の注意が必要である。少子化が進む本市は、通学バス利用の増加を想定した交通安全への取組を考えていく必要がある。

2 モデル地域の事業目標

拠点校として、通学バスを利用する日向小学校の交通安全に係る取組を事例にあげ、通学バスの安全な運行やバス停留所から自宅までの安全な登下校、学区の通学路の安全対策・防犯対策について話し合いを進めることで、本地域の交通安全に関する課題を明らかにし、その改善に向けて必要な取組を実践し、要望していくことを目標とする。

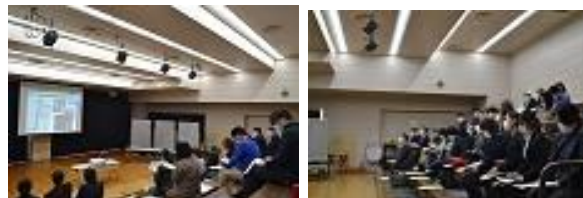
3 取組の概要**(1) 実施概要**

実施時期	計画事項	参加者
4・5 月	○第 1 回学校安全担当者会議 ○登下校指導・あいさつ運動実施	小・中学校安全主任 小・中学校
6 月	○実態調査アンケート ○スケアード・ストリートを組み込んだ授業 ○第 1 回実践委員会 ○通学路合同点検	児童・生徒、保護者 小学校（6 年生）、中学校 実践委員 市教委、小・中学校、PTA、警察、道路管理関係機関
7 月	○第 1 回合同推進委員会 ○日向小学校通学路の視察	合同推進委員、拠点校担当 実践委員
8 月	○中学校区合同研修会（交通安全講演会） ○第 2 回実践委員会	小・中学校教職員
9 月	○交通安全教育活動	実践委員
10 月	（全校集会、交通安全標語・啓発活動）	拠点校
11 月	○通学路安全推進会議	市教委、小学校（担当校長）、PTA、警察、道路管理関係機関

11 月	○第 2 回学校安全担当 者会議	市教委、小・中 学校安全主任
12 月	○公開実践発表会	実践委員、教 職員、PTA
2 月	○第 2 回合同推進委 員会	合同推進委員、 拠点校担当

教頭・教務主任・安全主任・
他教職員、実践委員、PTA、地
域住民

参加人数：約 30 名



4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

①実践委員会における情報共有

6 月、9 月に実践委員会を開催。実践委員会の中で情報交換の時間を設け、実践の活動内容等について共有を図った。

＜実践委員＞

東京都市大学准教授、千葉県教育庁東上総教育事務所指導主事、山武市教育委員会指導主事、学校運営協議会委員長、地元区長、PTA 本部役員、日向小学校校長・教頭・教務主任、山武中学校教頭、山武北小学校教頭、睦岡小学校教頭

②実践発表会の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、公開実践発表会を実施。

日 時：令和 4 年 12 月 14 日

テーマ：交通安全の意識を高くもつ児童の育成

内 容：交通安全の意識調査。交通安全教室。事故発生の危険性が高い地域の調査。通学バス・道路横断時の約束設定に関する交通安全教育活動。

参加者：千葉県教育委員会、山武市教育委員会、日向小学校校長・

③講演会・研修会の開催

モデル地域内において、学校安全アドバイザーによる講演会を実施。モデル地域内の学校の教職員を対象に拠点校の学校安全に関する研修を実施。

日 時：令和 4 年 8 月 24 日

テーマ：子どもの道路横断の判断能力とは？

内 容：子どもの道路横断時の行動のエラーを分析し、地域住民が主体となって積極的に子どもの安全を守ることの重要性を様々な実験や実践の紹介から伝えた。

参加者：モデル地域の小・中学校職員

参加人数：職員約 100 名

④交通安全教室（スケアード・ストレイト）の開催

モデル地域内の中学校を会場にスケアード・ストレイトを実施。

日 時：令和 4 年 6 月 14 日

内 容：スケアード・ストレイトを組み入れた交通安全教室

参加者：山武中学生徒、日向小・睦岡小・山武北小 6 年生児童、職員

参加人数：児童 100 名、生徒 320 名



⑤ 学校安全アドバイザーの活用

ア 東京都市大学准教授 稲垣具志

派遣校数 1校

派遣回数 3回

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

①モデル地域内の全ての学校の児童生徒を対象に意識調査を実施。(第1回6月と第2回11月実施の比較)

○保護者から、普段から交通安全への関心が高い回答が多くあった。

○特に歩道や横断歩道が少ない、歩きにくいという道路環境に対する意見が多かった。

○自転車保険に加入している割合が約40%から74%と増えた。

②スケアード・ストレイトを組み込んだ安全教室での感想

○命の大切さがよくわかった。

○自分が実際に事故にあったらと想像すると怖くなった。

○わき見運転やスマホをしながら運転はいけないということがよくわかった。家族に教えようと思った。

○「死角」や「自転車保険」のことに家族で話し合いたいと思った。

○ドライバーと「アイコンタクト」をすることで事故が防げることがわかった。

○もし事故に遭ったら、両親が心配するので気をつけたいと思う。

○実際に目の前で事故の瞬間を見ることで、事故の恐ろしさがよくわかった。

○自転車に乗るときは、必ずヘルメットを被ろうと思った。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

ア 市内通学路合同点検では、学校やPTA、道路管理者、警察等の関係機関と一緒に通学路の危険箇所の点検を行った。



イ 地域の調査として、授業参観や学校運営協議会等で来校した保護者や地域の方々に学区の中で気になる箇所（交通・防犯）について、地図に書き込ませて、情報を共有した。



(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

①6月の通学路合同点検で現地調査した箇所について、オンラインで進捗状況の確認をした。どのような安全対策を実行したのか確認することができた。

(4) その他の取組について

①通学バスを利用した交通安全啓発活動



②学級で考えた交通安全に関する標語

6年1組「手をあげて 車に伝える メッセージ」

6年2組「かくにんしよう 前後左右の安全を」

5年1組「暗い道 明るく照らす 反射材」

5年2組「暗い道 飛び出し事故に 気を付けて」

4年1組「あぶないよ 道路で絶対 ふざけない」

③上学年が発表した交通安全啓発活動



(発表を聞いた、下学年からの感想)

○暗いとき、反射材をつけて歩こうと思った。

○以前、自転車でふざけたことがあったけど、次からは、やめようと思った。

○運転手にわかるように、しっかり手をあげて、道路を渡ろうと思った。

○左右を見ないと、ひかれてしまうのだなと思った。

④各学校で取り組んだ交通安全教室

【山武中学校】

【山武北小学校】



【日向小学校】

【睦岡小学校】



5 取組の成果と課題

【成果】

○児童の交通安全についての基本的な知識・理解が向上した。

○スケアード・ストレイトや交通安全教室などの体験的な活動を通して、交通ルールを順守しようとする意識が高まり、危険予測力の向上が見られた。

○交通安全講演会の実施や実践した取組の発信等により、保護者の交通安全に対する意識を高めた。

【課題】

○今後更に、保護者を含め、学校・家庭・地域へと取組を広める方策を考え、実践していく必要がある。

○交通安全への高い意識を保持させるよう、市全体や各学校で日常的かつ定期的に交通安全活動を行い、危機意識を啓発する情報を発信していきたい。